

インフォーマティクス研究会



三上 春夫 JACR理事

千葉県がんセンター研究所がん予防センター(疫学研究部)

令和2年3月11日は保健予防関係者にとって深く記憶されるべき日となった。この日WHO(世界保健機関)は新型コロナウイルスについて、「パンデミック(世界的大流行)」の状態にあることを宣言した。昨年秋には中国武漢市で既に発生していたと思われるこの致死性感染症はCOVID-19と名付けられ、3月6日には世界で10万人超、日本でも3月11日には500人超と留まることを知らず、3月13日には米国のトランプ大統領が国家非常事態宣言を発令、4月6日には日本でも安倍晋三首相により緊急事態宣言が発せられることとなった。このような全世界を巻き込んだ未曾有の混乱の中、私たちの企画したがん登録インフォーマティクス研究会も中止のやむなきにいたったのである。

この研究会は、2011年9月第20回地域がん登録全国協議会(JACR)学術集会(会長三上春夫)が千葉市で開かれた折、今回集会世話人の一人である三上を研究会長としてサテライト開催されたものである。

2011年といえば折しも3月11日に東日本大震災が発生し、その余波として福島第一原発事故と、これもまた未曾有の放射能汚染事故となり日本社会は悲嘆と混乱に沈みました。

研究会の趣旨は日常作業として手間暇のかかる、研究とも呼べぬような煩雑な事務仕事の集積であるがん登録の技術的側面を学術から捉え直して、がん登録を情報処理科学としてリファインしていこうというものです。その先には統計学のみならず、コンピュータ科学としてのデータベース構築の問題、個人情報保護の問題、日本語処理の問題等々を通じて、がん研究の本質につながる、欧米の関係者がCOEと呼ぶ(Center Of Excellence 学術的核心)としてのがん登録本来の姿が浮かび上がってくるに違いありません。

さて研究会開催は見送りとなってしまいましたが、世話人として開催を断念したわけではなく、折を見てぜひ、再度開催の機会をうかがっています。その際には皆様、ぜひご参集をお願いいたします。都立駒込病院の田淵先生のご尽力によりソフトウェアベンダーをはじめ数多くの優秀な関係者が参加を予定しておりました。これらの人材はがん登録の未来の力となって下さる方々です。また研究会の終わりに日本がん登録協議会(JACR)への勧誘も予定しておりました。協議会に新たなメンバーを迎えることは会の発展とともにJACRの経営基盤の安定化にもつながります。そのような開かれた集会となることを祈念して。

JACR委員会報告[学術委員会]



安田 誠史 JACR理事

高知大学医学部

西野 善一 金沢医科大学医学部公衆衛生学
宮代 勲 大阪国際がんセンター
祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科

伊藤 ゆり
森島 敏隆

大阪医科大学研究支援センター
大阪国際がんセンター

学術委員会は令和2年7月1日からモノグラフ編集の組織(通称モノグラフ編集委員会、以下、本稿ではモノグラフ編集委員会とします)を統合して新しい体制になります。令和2年6月末時点での学術委員会委員長としての立場で、二つの組織を統合した背景を説明し、また新しい学術委員会活動への期待を述べます。

学術委員会は、がん登録資料を用いた疫学研究、あるいはそれを支える技術開発での実績を表彰する学術奨励賞の審査、若手会員によるIACR(国際がん登録協議会)での演題発表を奨励する藤本伊三郎賞の審査、そして学術集会一般

演題からの優秀演題の選考審査を担当しています。また、学術集会長から要請があれば、学術集会でのシンポジウムの企画と運営を助言しています。一方モノグラフ編集委員会は、JACR Monographへ投稿される論文の査読審査に加え、学術奨励賞受賞者による学術集会での受賞講演要旨(受賞者が、学術集会抄録集に掲載の抄録に加筆修正を行ったもの)をJACR Monographに掲載するための編集、学術集会一般演題発表(口演・ポスター)の抄録(一般演題発表者が、学術集会抄録集に掲載の抄録に加筆修正を行ったもの)をJACR Monographに掲載するための編集も担当しています。

学術集会での優秀演題賞審査の対象になる一般演題の

次ページへ続く